



2022.11 vol.32

協力隊通信

加藤 絵美



前回の通信から5カ月。早いもので秋も終盤に差し掛かり、これまでの間いろいろなことがありました。今回は、7月から10月までのアウトドア普及活動などを振り返って報告します。

◆飯豊連峰山形県側二町合同山開き (7月)

小国町との合同事業、飯豊連峰山形県側二町合同山開きを行いました。コロナ禍で延期になり、実に3年ぶりとなった本行事では、1日目は神事、2日目は2コースに分かれて記念登山を実施しました。Aコースはダケカンバが林立する庭園のような御坪まで、Bコースはその手前の地藏岳まで、計14名が参加し、登山に挑戦しました。

暑い中での厳しい山行の中、どちらのコースからも飯豊連峰の雄大な稜線を眺めることができました。参加者からは「初めての飯豊連峰に少し不安な気持ちで臨んだけれど、笑って楽しむことができた」との感想もいただきました。



◆8月3日大雨災害に関するボランティア活動(8月)

飯豊町と周辺地域を襲った豪雨の後、通勤の前後に被害を目にする中で、微力ながらお役に立てればと、ボランティア活動に参加しました。2017年に日本列島を直撃した台風21号の被害支援で千葉県館山市での被害支援活

動に参加したことがあったものの、専門的な知識が無く不安がありました。それでも飯豊町社会福祉協議会ははじめさまざまな団体による組織づくりが

しっかりできており、安心して取り組むことができました。敷地内の泥や砂の除去、家の中の清掃が主な内容で、被災された方が少しでも暮らしやすくなるようにと願いながら活動しました。1967年の羽越水害を思い出したと、当時の話も近所の方々から伺いました。近年、温暖化に伴って自然災害が増えています。もしもの時にどう対応・避難するのか、また被害を最小限に食い止めるために山や川、自然とどう付き合っていくのか、日ごろから考える必要があると考えています。

◆ライク・ア・バードokitama フォーラム2022に参加(10月)

やまがたアルカディア観光局とソトコトがタッグを組んで行ってきた映像プロジェクト「ライク・ア・バードokitama」。19世紀末、海外旅行が一般的ではなかった時代に、日本を旅した英国人女性旅行作家イザベラ・バード。その道中を記録した『日本輿地紀行』の中で「東洋のアルカディア(桃源郷)」と称賛した山形県・置賜地方を舞台に「現代版イザベラ・バード」と呼びたいような5人の女性が、おのおの白鷹町・飯豊町・長井市・南陽市・小国町を旅し、その地域の魅力を伝えていきます。今回はおよそ1年

ぶりに関係者が集まり、プロジェクトを振り返るとともに、さらにこの地域へ関係人口を増やすべく、連携していくことを確認しました。今後どんな展開をしていくのか、ぜひご注目ください。



ライク・ア・バードokitama紹介

飯豊町編YouTube

